

【22_294技術系メルマガ】”ただしい” 利確の仕方

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

以前公開した『”ただしい” 損切りの仕方』(【290】通目参照)のメールに対しても、多数の感想を頂きましたが

やはり、その対をなす『利確に対する考え方』も扱ってほしいとの要望が多かったので

今回のメルマガで、僕の考えを整理してお話していこうと思います。

といっても、これもここまで一貫してお伝えしてきている通りなのですが

大事なポイントは『自分の基準を作り、決める』ということです。

┌
└─┬─┬─
■ クロの利確の基準は『対コスト』で考える

まず、この話に限らないポイントですが

トレードにおいて迷いが生じる原因は、何度もお伝えしているように

『基準がなく、前もって決められない』ことにあります。

▼参考ツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1582173376256229376?s=20&t=ltpePSeWxUe-plfit8pTIQ>

ツイートにも書いているとおり、しつこいようですが

僕らがどれだけ分析技術を駆使しようと、先の見えない右端より先の今後の値動きがどうなるのかは

誰にも“絶対に”わかりません。

もしそれが本当に分かってしまう人がいるのなら、その人が相場で独り勝ち出来てしまうことになりませんが

そんな人は現実に存在しないし、どんなに著名なトレーダー、投資家であっても

自己の相場観の見誤りによって損失を出している事からも、それは公然の事実なわけです。

であれば、僕らがすべき事とは何か。

先の結果が見えない以上、自分のトレード判断の結果によって損失が出る可能性はあるわけですから

『自分の前もって決めた“基準”に従って損切りを行い、同様に利確も行う』必要があります。

どこまで値が伸びるか？ これだって誰にもわからないからこそ、自分の基準に従って利確するのが

最も迷いも後悔も最小限に出来る唯一の方法です。

先が分からないのに、「目一杯利を伸ばそう」等と考えるのは、品の無い言い方をすれば

ただの スケベ根性 です。

「あれもこれも欲しい」というのは、相場、特にレバレッジを掛けるFXの世界では一番身を亡ぼす考え方だと心得ておかねばいけません。

少々前置きが長くなりましたが、僕の『利確の基準』は、サブタイトルにもある通り

『対コスト』で決めています。

どういうことかというと、例えば僕がGBPUSDでショートポジションを取っていたとします。

その時、エントリー位置から損切りまでの位置が10pipsでした。

僕のトレードの『型』では、リスクリワード比は1:2~3で利確です。

この場合、型に従うなら20～30pipsの範囲で利確をするのがルールとなります。

ここまで読んで疑問が出てくるとしたら

「では、ショート方向の空間で見たとき、次の邪魔なラインやMAまで40、50pipsくらい空いていたら、そこまで引っ張ってもいいのではないか？」

こんなところでしょうか。

それでも僕は、現行のルールでは最大30pipsくらいで利確してしまいます。

何故か？

それは、このリスクリワード比率で勝ち・負けのトレードを型通りに繰り返していくことで

トータルの利回りがプラスになると、過去の検証・テストの結果から明らかになっているからです。

型に沿わない利の伸ばし方をしたところで

結果はプラスになるかもしれないですが、逆に含み損が出たり、建値でポジションが無くなるリスクもありえるわけですから

過去の結果に従って決めた通りにやる方が、自分自身の納得度も高いのです。

これでもし、そのあと20pips欲しさに利確しなかったときに

建値にでも返されたらどうなるか？

「ああ、決めた通りに利確しておけば利益になったのに」と後悔する事になりますよね。

その場の雰囲気、「普段と違う事」をするというのは、ルール違反の第一歩となりうるし

そのせいで破滅的な結果に追いやられた人も数知れません。

トレードで大事なものは、とにかく『決める事』であると同時に、それを『守る』こと。

この考えをより強化するには『守るに値する型である』ことを、自分自身が検証とテストで納得すること。

これらの組み合わせの結果として『利確』をどうするのか決められる状態が

僕の考える『いちばん“ただしい”利確』です。

ここまでの話をしっかり読み込んでもらった人には、単に「損切り・利確の仕方」を他人から教わっただけでは

まともに使いこなすことは出来ないと納得してもらえたのではないのでしょうか。

どこまで行っても、トレードというのは

正しい答えは『相場』しか持っていないし、そこに対峙しようとするのであれば

オペレーションを行うトレーダー自身に『一貫性』が無ければ成り立たないという原理原則のみが在る。

この点を忘れないようにしながら、今自分に足りないものを少しずつ強くしていくことが必要ですね。